

駒澤大学 1 - 3 筑波大学

だめ押ししの3点目を決められ肩を落とす太(左)。2節の順大戦以降2失点と安定した守りで駒大のゴールを守り続けてきたが、3失点を食らったこの日のショックは大い(撮影・野澤俊介)



首位奪還をかけ臨んだ一戦、しかし・・・

駒大の真骨頂みえず

首位に立つ筑波大との前期最終節。勝たなければならぬ試合だった。しかし「チームとしてやるうとしていることが最優先。なのに今回は自分のことしか考えていないようなプレーが目立ってしまった」と主将鈴木祐が振り返るように、この日の駒大は歯車が噛み合っていないかった。話題の中心であった筑波大・平山の欠場もどこ吹く風。天王山にふさわしい両者一歩も譲らぬ立ち上がりとなった。15分、試合は動く。桑原がゴール前に放り込んだボールを相手DFが対応。そのはねかえりのボールを左サイドから駆け上がった小林亮が左足で豪快に押し込み先制点をあげる。しかし歓喜もつかの間、その2分後に筑波大に同点ゴールを許してしまう。その後何度かひやんとする場面もあったがなんとか失点を1に抑え前半終了。

雨が降り始め、重苦しい雰囲気包まれながら進んでいった後半。その状況を打開したのは駒大ではなく筑波大だった。50分、藤本のサイド攻撃を起点とした攻めに揺さぶられた駒大ディフェンス陣は、秋田のゴールを許してしまう。つづく53分にも失点を喫し、筑波大の2点先行。何とかして追いつきたい駒大は勢いのある東平、小林竜を同時に投入し手を打つがゴールには至らず。逆転する時間は十分にあった。しかし「筑波のほう頑張っていたのは外から見てもはっきりわかることだと思ふ。中後が振りかえったように駒大に反撃の兆しは見られることなく前期最終節は3位で幕を閉じた。

近年には珍しく連敗を喫した駒大。しかし「トップとは勝ち点5差。優勝はまだ狙えると思う。駒大は追われるよりも追うほうが得意だと思ふのもう一度粘り強さを見せていきたい」と小林亮は言う。リーグは一時中断だが、来週には総理大臣杯出場をかけた関東選手権もはじまる。下を向いている暇は無い。駒大の目標はあくまでも大学3冠、そしてプロチームを倒すことなのだから。(深松 美里)